

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和8年(2026) 5月

Vol.117

CONTENTS

- 1~2 令和7年度21世紀文明シンポジウム「気候変動対策～未来を守るための私たちの選択～」を開催
- 2~3 第6期中期目標・中期計画(期間:令和8年4月~令和12年3月)
- 4 令和8年度第1期こころのケア研修の受講者募集
- 5~7 人と防災未来センター MiRAi
- 8 研究レター

令和7年度21世紀文明シンポジウム 「気候変動対策～未来を守るための私たちの選択～」を開催

令和8年2月19日(木)、気候変動対策について考える「21世紀文明シンポジウム」を神戸市内のラッセホールで開催し、オンライン配信と合わせて約400人が受講しました。

◎基調講演

「気候変動問題と私たちの将来 ～持続可能な社会に向けた変革と道筋～」



講師 長谷川 知子

立命館大学
総合科学技術研究機構教授

長谷川氏は、気候変動による影響が既に「不可逆的」な段階に入っていることを強調。海面上昇や海洋の深部との熱塩循環停止など、現在進行中の現象を具体例として挙げました。2015年のパリ協定における1.5度・2度目標、そして2050年代のカーボンニュートラル実現という国際的目標が、単なる政治的約束ではなく科学的必然性に基づいていることを明らかにしました。

カーボンニュートラル達成に向けては、エネルギーシステムの根本的変革が必須である一方で、農業や鉄鋼製造といった、どうしてもCO₂排出が残ってしまう産業分野については、直接空気回収(DAC)など補完技術の活用も必要とされました。ただし長谷川氏は「吸収・除去技術に過度に依存してはならず、基本的な気候変動対策の早期かつ大規模な実行こそが優先されるべき」と強調。また、食糧危機とえばアフリカをイメージするかもしれないが、気温上昇の影響でインドの飢餓進行という深刻な危機をもたらしていることを紹介するなど、気候変動と食料問題の関連性についても専門的に言及し、グローバルな視点での総合的課題解決の必要性を示唆しました。

◎パネルディスカッション

- コーディネーター 増原 直樹 兵庫県立大学環境人間学部准教授
- パネリスト 竹内 昌義 東北芸術工科大学デザイン工学部教授/エネルギーまちづくり社代表取締役
- 前川 翔太 福井県坂井市生活環境部環境推進課主事
- 木原 浩貴 たんたんエナジー株式会社代表取締役/総合地球環境学研究所客員准教授
- 安福武之助 株式会社神戸酒心館 代表取締役社長



竹内 昌義氏

竹内氏は、建築分野における断熱性能向上を主題に発表。日本の建築物の断熱水準が国際基準に比べて大きく遅れていることを指摘し、具体的な断熱素材の活用方法や補助金制度の実務的な活用法を紹介しました。特に、子どもたちが自らの学校の断熱改修プロジェクトに参加することで、快適な学習環境を自分たちで作る「学校断熱ワークショップ」の重要性を強調し、この取り組みが、グッドデザイン賞の「2025グッドフォーカス賞[防災・復興デザイン]」を受賞したことも報告しました。



前川 翔太氏

前川氏は、福井県坂井市での気候変動教育の先進的取り組みを報告。市職員と大学教員が連携して実施する小中学校での授業が、単なるエコ行動の指導ではなく、子どもたちが「未来をいかに構築するか」を考える「シチズンシップ教育」と組み合わせられていることを紹介しました。重要な点として、授業実施後の効果検証を継続的に実施し、課題と解決事例を積み重ねている手法が示されました。



木原 浩真氏

木原氏は、地域新電力事業と気候コミュニケーションについて発表。心理学的観点から「人はなぜ気候変動問題を理解しながらも行動に踏み出せないのか」という根本的な問いを提示しました。認知的不協和(矛盾する情報に直面した際の思考停止)の概念を導入し、脱炭素社会を「負担」ではなく「社会のアップデート」として捉え直すことの重要性を強調。丹波・丹後地域でのエネルギー事業を防災やスポーツ支援などの地域課題と有機的に組み合わせることで、包括的な価値創出を実現している事例を紹介し、令和7年度には、これらの取り組みが環境省の「脱炭素先行地域」に選定されたことも報告しました。



安福 武之助氏

安福氏は、「環境に負荷を与えないで、美味しい日本酒を作る」という経営哲学を強調しました。この一見矛盾する目標の達成に向けて、SDGsへの先進的な取り組みを実施。杜氏から社員による酒造りに転換を迫られる中で、水やエネルギーの使用及びCO₂

排出の削減と売上拡大の両立（デカップリング）に成功しました。気候変動の影響を受けやすい水資源確保の課題に直面しながらも、持続可能な事業運営に向けた継続的な創意工夫を行っています。

パネルディスカッション終盤では、各パネリストから参加者へのメッセージが発信されました。

竹内氏は、「脱炭素化を『誰かが対応してくれるだろう』と受動的に考えるのではなく、個人の投資判断を通じた『暮らしのイノベーション』が重要である」と訴えました。断熱改修にはお金がかかるが、健康と快適性、そして経済的リターンの面でも必ず回収できるとし、希望を持って自分事として取り組むことを強調しました。

前川氏は、気候変動問題は、行政だけでは解決できない課題であり個人の協力が欠かせないこと、そして坂井市の「寄付市民参画制度」のように市民からの提案が事業化される仕組みの重要性を示唆。「皆さんが持つその思いは他の人に伝播する。まずはこの思いを持ち続けることから始めよう」というメッセージを投げかけました。

木原氏は「限られたものの中からどう減らすか、どう我慢するかではなく、『こういう選択肢があるよね』という選択肢そのものを作っていくことが重要」と強調。具体的には、酒屋で「このお酒置いていないの?」と聞いてみるように、学校の電気を再生可能エネルギーにする選択肢がないなら、周囲の人や議員、教育委員会と話しながら選択肢を作ろうとア

クションすることを提起しました。

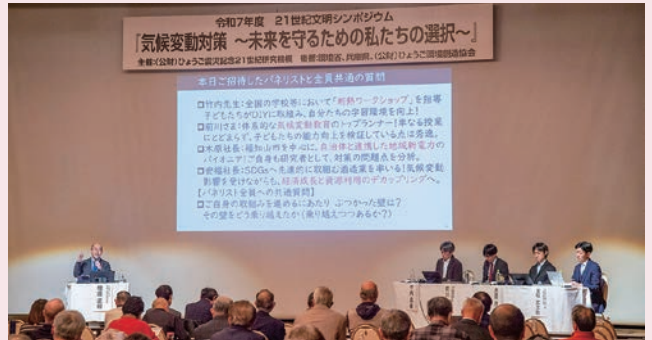
安福氏は「サステナブルであることはコストではなく、価値であり、選ばれる理由である」「ブランドは企業の姿勢である」と述べました。企業経営の観点から、消費者が環境配慮型商品を購入したいという意思は多く見られるものの、実際の行動に繋がりにくい現状があり、この態度と行動のギャップを埋めることが課題であるとして、サステナビリティを新たな付加価値として社会に提示していくことの重要性を示しました。

◎全体総括



増原 直樹氏

最後に増原コーディネーターは、「多くの人が『誰かが解決してくれるだろう』という漠然とした期待を持ちがちであるが、脱炭素社会の実現は、足元からの断熱改修、持ち続けた思いの他者への伝播、新しい選択肢の創造、そして環境配慮型商品への投資という、一人ひとりが積み重ねるアクションによってのみ可能になる。これは決して「我慢」ではなく、より快適で健康的で、そして経済的にも返ってくる「賢明な選択」であることが本日の議論を通じて明らかになった」と総括しました。



第6期中期目標・中期計画（期間：令和8年4月～令和12年3月）

1995年の阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて設立された公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構（以下「機構」）は、令和8年に設立20年を迎えます。

私たちのミッションは、大震災の経験を未来に生かし、南海トラフ地震をはじめとする将来の大規模災害への備えを強化するとともに、21世紀の新しい社会づくりに貢献することです。

令和6年能登半島地震での現場支援を通じて、被災者支援における防災DX推進の重要性が改めて明らかになりました。これらの知見を全国的な対応につなげるとともに、発生が予測される南海トラフ巨大地震や激甚化する風水害などに備え、事前防災の徹底が求められています。

一方、国際情勢に目を向けると、ロシアによるウクライナ侵攻やパレスチナ・イスラエル情勢など、紛争や対立が深刻化し、国際秩序の不安定さが増しています。今こそ淡路会議の精神を継承し、多文化

共生社会の実現に向けた発信を強め、こうした課題を共に考え備える基盤を築いていく必要があります。

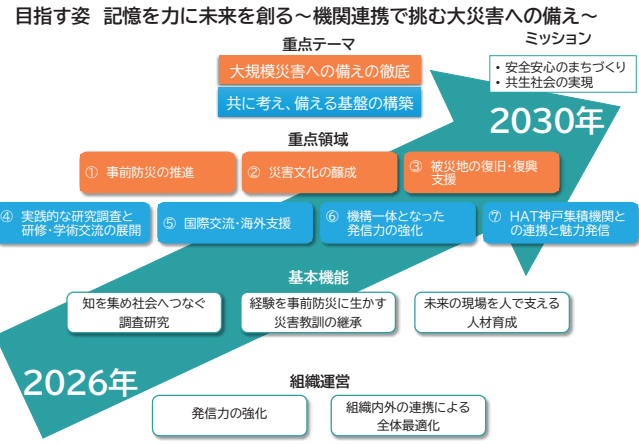
こうした認識のもと、機構は今後4年間で取り組むべき方向性と、2030年に目指す姿を見据え、第6期中期目標を策定しました。国では2026年11月の防災庁設置に向けた準備が進んでおり、私たちもその動向を踏まえつつ、国の防災・減災方針に沿った取り組みを進める必要があります。また、関係機関や兵庫県、大学との連携を一層強化し、成果を広く発信して行政や地域の取り組みに生かすことで、「安全・安心なまちづくり」や「共生社会の実現」に貢献してまいります。

2030年に向けた具体的な事業検討にあたっては、機構が持つ3つの基本機能——「調査研究」「災害教訓の継承」「人材育成」——を基盤とし、組織運営面では発信力の強化や、組織内外の連携による全体最適化の視点を重視しています。事業一覧は以下のと

おりであり、各取組の詳細は「中期計画」に整理・記述しています。

中期目標・中期計画の全文は、機構ホームページに掲載しています。

ひょうご震災記念21世紀研究機構「hem21」サイトへ▶



■ 第6期中期計画/重点領域と基本機能による検討事業一覧表

重点テーマ	重点領域 (7)	基本機能 (3)		
		調査研究	災害教訓の継承	人材育成
大規模災害への備えの徹底	(1) 事前防災の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○【新】防災DX研究の推進(研戦) ○【新】実務研究員の採用と研究員制度の改革(研戦) ○【新】「社会の相転移」を利用した事前防災プロジェクト(人防) ○【拡充】海外のこころのケア支援者(医療関係者)との国際協力(ケア) ○こころのケアの調査研究(ケア) 	<ul style="list-style-type: none"> ○【新】防災知アーカイブ&アクションプロジェクトの展開(人防) ○【拡充】21世紀減災社会シンポジウムの開催(研戦) ○【拡充】自治体災害対策全国会議の機能強化〔有識者による委員会運営、視察の重視〕(研戦) ○【拡充】語り部の経験と知恵を残し役立てるプラットフォームの構築(人防) 	<ul style="list-style-type: none"> ○最新の知見で災害対策をレベルアップ～災害対策専門研修の充実(人防) ○被災地支援を基盤とした実践的な防災研究と専門家の育成(人防)
	(2) 災害文化の醸成		<ul style="list-style-type: none"> ○【新】いつでも、だれでも、どこでも災害ミュージアムプロジェクト(人防) ○最新技術で防災の重要性を伝える～行動変容を促す展示の展開(人防) ○連携と協働で学びと実践を共有する～交流ネットワーク機能の拡充(人防) 	
	(3) 被災地の復旧・復興支援	<ul style="list-style-type: none"> ○【新】災害中長期の復興指標デジタルツールの開発(ケア) 	<ul style="list-style-type: none"> ○【再掲】【新】防災知アーカイブ&アクションプロジェクトの展開(人防) ○被災地などへのこころのケアの継続支援(ケア) ○兵庫県災害派遣精神医療(こころのケア)チーム「ひょうごDPAT」体制整備事業(ケア) 	<ul style="list-style-type: none"> ○【再掲】兵庫県災害派遣精神医療(こころのケア)チーム「ひょうごDPAT」体制整備事業(ケア) ○【再掲】被災地などへのこころのケアの継続支援(ケア)
共に考え、備える基盤の構築	(4) 実践的な研究調査と研修・学術交流の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○【拡充】21世紀文明シンポジウムの新たな展開(研戦) ○【拡充】アジア太平洋研究賞の見直し(研戦) ○自主研究の推進(研戦) ○県要請研究の課題選定方法の改善(研戦) ○【新】トラウマインフォームドケア教育動画教材・デジタルデバイスの開発(ケア) ○【拡充】非常時の診療を支える確かな連携と指揮体制の確立(ケア) ○【再掲】こころのケアの調査研究(ケア) ○専門医療機関として確かな診療を～診療体制の強化によるこころのケアの役割の推進(ケア) ○こころのケアシンポジウムの開催(ケア) 	<ul style="list-style-type: none"> ○【拡充】災害伝承ミュージアムネットワークによる新しい防災文化の普及(人防) ○震災資料の積極活用～記憶を力に変える資料収集・保存・展示機能の深化(人防) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひょうご講座[県民向け連続講座]の開催(研戦) ○【再掲】【新】トラウマインフォームドケア教育動画教材・デジタルデバイスの開発(ケア) ○こころのケア研修(専門研修、基礎研修、特別研修)の実施(ケア) ○ヒューマンケア実践普及講座の開催(ケア) ○兵庫県音楽療法士養成講座の開講(ケア) ○県外参加希望者のためのハイブリッド開催・オンデマンド開催の拡充(ケア)
	(5) 国際交流・海外支援	<ul style="list-style-type: none"> ○【再掲】アジア太平洋研究賞の見直し(研戦) ○HUMAP構想の推進〔留学生・研究生支援：県受託事業〕(研戦) 		<ul style="list-style-type: none"> ○【再掲】【拡充】海外のこころのケア支援者(医療関係者)との国際協力(ケア) ○海外の行政機関等職員向け災害時こころのケア研修〔JICA関西からの受託研修〕(ケア) ○海外避難民へのこころのケアに係る支援活動(ケア)
	(6) 機構一体となった発信力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○【拡充】「21世紀ひょうご」の編集改善(研戦) ○【拡充】ニュースレター「Hem21」の成果発信型への改革と「研究レター」の統合(研戦) ○【拡充】ホームページによる発信の強化〔サムネイル活用による3センターの一体化〕(研戦) 	<ul style="list-style-type: none"> ○YouTube動画「いのちを守る 記憶をつなぐ」の配信(令和12年3月末配信終了)(管理部、3センター) 	
	(7) HAT神戸集積機関との連携と魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ○共同研究への助成〔DRA枠〕(研戦) ○研究成果報告会・DRA研究員交流会の開催(研戦) 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際防災・人道支援協議会(DRA)事業への支援(人防) ○HAT神戸の魅力づくりへの貢献(人防) 	

注) 研戦・人防・ケアはそれぞれ、研究戦略センター、人と防災未来センター、こころのケアセンターを示す。



情報ひろば

兵庫県こころのケアセンター

令和8年度 第1期 こころのケア研修の受講者募集

こころのケアに携わる保健・医療・福祉・教育・消防・警察等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ研修の受講者を募集しています。

区分	コース名	開催日	定員	対象	受講料	申込締切日
専門 研修	被災者や被害者をささえるために ーサイコロジカルファースト エイド(PFA)を学ぶー	令和8年 5月28日(木)	25名	公認心理師、看護師、 保健師、精神保健福祉 士、行政、教育関係、 その他関連関係者	3,100円	令和8年 4月24日(金)
	消防職員のための 惨事ストレスの理解と予防	6月24日(水) ～25日(木)	50名	消防職員	3,600円	5月13日(水)
	犯罪被害とこころのケア	7月8日(水) ～9日(木)	30名	保健・医療・福祉・教 育・司法・警察・消防 関係等職員	3,800円	5月27日(水)
基礎 研修	関わりの中の トラウメインフォームド・ケア	7月15日(水)	30名	教育・福祉・保健・医 療関係等の対人支援業 務従事者	2,800円	6月3日(水)
専門 研修	悲嘆の理解と遺族への支援	8月6日(木) ～7日(金)	25名	医療・保健・福祉・心 理臨床の分野で活動す る者及び遺族支援に携 わる者	4,100円	6月25日(木)
	被害者や被災者の中長期の回復 を支えるこころのケア ーサイコロジカル・リカバリー スキル(SPR)ー	8月26日(水) ～27日(木)	25名	医師、公認心理師、看 護師、保健師、精神保 健福祉士、その他関連 領域の関係者	4,100円	7月22日(水)

場 所 兵庫県こころのケアセンター

《交通アクセス》 阪神「春日野道」駅から南へ 徒歩約8分

申し込み方法

下記申し込みフォームよりお申し込みください。
申込者多数の場合は、各申込締切日を期限として抽選で受講者を決定します。

申し込みフォーム

下記 URL または右の二次元コードよりお申込みください。
https://www.j-hits.org/form/training_r08/



スマホの方は
コチラが便利

問い合わせ

(公財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
兵庫県こころのケアセンター 研修情報課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2 TEL.078-200-3010
✉ E-mail: kensyu@j-hits.org 地球 https://www.j-hits.org

新任研究員紹介



研究員

仲里 ケイト

なかさと けいと

皆様、はじめまして。4月より人と防災未来センターの研究員として着任いたしました、仲里ケイトと申します。

出身は米国ハワイ州で、世界をより広くみるため（あわせて自分のルーツを知るため）2017年に日本の大学への留学を決め来日しました。専門は医の倫理と医療社会学です。大学院では、公平性・多様性・包摂性を重視した医学研究および医療提供について研究を行ってきました。他にも、薬剤耐性対策に関する医療政策や、外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援と居場所づくりにも携わってきました。防災に関しては、防災の倫理、災害時の健康維持、防災と多文化共生に関心を持っています。

防災研究と関わるのは初めてとなりますが、2018年の北海道胆振東部地震の影響により避難所に数日滞在したことがありますので、地域の災害対応力および住民への防災教育の重要性を強く実感しております。こうした中で、多様な背景とニーズをもつ住民を包摂した取り組みも重要な課題であると考えます。

人と防災未来センターでは、これまで培ってきた知識と経験を活かしながら、誰も取り残さない防災・減災を目指したいと思っております。さまざまな分野の研究員の皆さまと力を合わせ、新しい研究を進めていけることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。



研究員

李 惠智

りへじ

皆さま、はじめまして。4月より人と防災未来センターの研究員として着任いたしました、李惠智と申します。専門は都市計画・まちづくりで、土地利用と連携した防災対策について研究を進めております。

出身は韓国で、これまで大きな災害を経験したことはありませんでしたが、日本への留学をきっかけに自然災害や防災に関心を持つようになりました。学部の卒業論文では活断層付近の土地利用規制について研究し、地震災害への理解を深めたいと考え、人と防災未来センターを訪れたのが初めての来館でした。その際に、リアルな被害の様子に大きな衝撃を受け、被害を最小限に抑えるために何ができるのかを学びたいと考えたことが、防災研究に本格的に取り組むきっかけとなりました。

近年は流域治水を大きなテーマに、土地利用と住民参加を軸とした研究を進めております。京都府北部に流れる一級河川由良川の流域をフィールドに、宅地嵩上げや輪中堤といった治水対策の実施プロセスや住民対応について調査を行っております。防災まちづくりは、制度や研究成果を全国に一律に適用するのではなく、地域の歴史的背景やニーズを踏まえて検討することが重要であると考えております。地域事情に寄り添いながら、柔軟な対応・提案ができる防災研究者を目指します。

人と防災未来センターは、研究と現場対応を両立できることが魅力的だと感じております。また、多様な分野の研究員が所属していることから、専門領域を超えて幅広い視野で防災に関する知見を深めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



研究調査員

秋山 裕登

あきやま ゆうと

皆様、はじめまして。4月より芦屋市から人と防災未来センターに研究調査員として派遣されました、秋山裕登と申します。

私は芦屋市において11年間勤務してまいりました。そのうち8年間は福祉および保健衛生部門において、生活保護や感染症対策に関する業務に従事してまいりました。その後、防災部局へ配属となり、地域防災計画の改定、市職員向け防災訓練の企画・運営や補助金を活用した市民防災組織への支援業務など、地域防災体制の強化に関わるを担当してきました。

芦屋市は阪神・淡路大震災により大きな被害を受けた自治体の一つですが、震災から30年以上が経過し、当時の経験を直接知る職員はほとんどいなくなっています。被災経験自治体として、今後は震災の教訓を風化させず、次の世代へ「伝える」ことが重要な役割であると認識しています。

人と防災未来センターに蓄積された震災の記録や、研修等を通じて築かれてきた全国の自治体とのネットワークを活用し、調査研究を進めることで、震災の教訓を職員や住民にどのように伝えていくべきか、またその中で自治体が果たすべき役割について考える貴重な機会をいただきました。人と防災未来センターにおける様々な活動にも積極的に携わって努めてまいりたいと考えておりますので、先生方、研究員の皆様方からご指導・ご助言を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

防災100年えほんプロジェクトイベント 「Meet up!2026」を開催しました

令和8年4月12日(日)、人と防災未来センターを会場として、防災100年えほんプロジェクトイベント「Meet up!2026」を開催しました。

このイベントでは、令和7年度に実施した「第4回 ものがたり（絵本の原案）募集」の入選者表彰及び今年3月に刊行された2冊の防災絵本「また、かえりみちがわからなくなった。」「せんせいからこどもたちへ」の出版報告会のほか、本プロジェクトにご協力いただいている方々を迎えたセッションを行いました。

ものがたりの入選者表彰では、入選6作品が本プロジェクト実行委員長である河田 恵昭センター長から表彰されました。

出版報告会では、各絵本の制作に携わった作者・原案者・編集者の方々にご出席いただき、絵本制作時のエピソードや絵本への思い等を伺いました。

セッションでは、元NHKアナウンサーでものがたり選定委員である住田功一氏、フリーアナウンサーで防災絵本専門士である古賀涼子氏、フリーアナウンサーで絵本専門士である大西友子氏、人と防災未来センター主任研究員の具本竣氏に登壇いただき、災害伝承や絵本に関してそれぞれが行っている取り組みについてお話しいただき、プロジェクトの成果や可能性について共有する場となりました。

ものがたり入選6作品

作品タイトル	作者
行け！だいふくマン	まえだまさき
神様になったけんさん	国重 久司
ハナミズキのしろいみち	山形 梢
迷い犬カツの旅	ほりぐちひさこ
やさしい気持ちを言葉にのせて	すぎやまみやこ
よってきいな	つつみたくみ



新刊絵本紹介

これまで刊行している4冊の防災絵本とともに、人と防災未来センターミュージアムショップやAmazon等オンライン書店で購入いただけます。



また、かえりみちがわからなくなった。

いつも きがつけば、ぼくは
ぶんぼうぐやの まえにいて
かえりみちが わからなくなる。
その度、タクシーのおじさんに乗せてもらっては
いるんなばしよに たどりつく。

被災後、時間をかけて日常を取り戻す、家族の再生の物語が、3年生の少年ダイスケの目を通して描かれます。

<https://tsumugu-sha.com/books/>

原案：ありのくろき
文：まめそら
絵：くぼたひろこ
発行：つむぐ舎
定価：1,600円+税



せんせいからこどもたちへ

担任の先生は、いつもあんまり表情が変わらない
だからあだ名はポーカーフェイスのポーカー。
そんなポーカー先生を友達の佐々木くんは、いつもいたずらで困らせる。
ある日、授業中に避難訓練の放送が。
なのに、こんな時にも自分勝手な佐々木くん！
その時だったんだ。

いつも冷静なポーカー先生が、初めて大きな声を出して…
震災から31年。実体験に基づくストーリーを語り継ぎます。

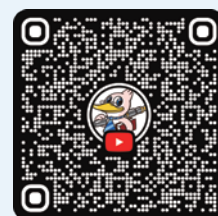
原案：いはら つばさ
作・絵：はまだ みわ
発行：神戸新聞総合出版センター
定価：1,500円+税



人と防災未来センター資料室のお知らせ



資料くん



人と防災未来センター資料室
DRI Library & Archives

QRコード

URL <https://www.youtube.com/@DRI-Library-and-Archives>

2025年12月からYouTubeチャンネル「人と防災未来センター資料室 DRI Library & Archives」を開設しました。

YouTubeを通じて資料室の活動や震災資料（主に映像資料）に関する情報を発信していきます。

資料室の企画展の告知や、センター所蔵の震災資料を活用した映像（映像資料集や企画展等で公開した展示映像など）の公開を行います。ここで公開している映像は、震災学習・防災学習の教材利用や地域の防災力向上に向けた取り組み等へ活用することができます。

二次利用については、チャンネルページのリンクにある「資料室YouTube運用方針」に従い所定の手続きを行ってください。

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 **阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター** <https://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)

入館料金

大人:650円(500円) 大学生:450円(350円)

東館のみ観覧の場合

大人:300円(250円) 大学生:200円(150円)

高校生、中学生・小学生:無料

※()内は20名以上の団体料金

※障がい者、70歳以上の高齢者割引有

※毎月17日は、入館無料

(17日が休館日の場合は、翌18日となります)

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月29日～1月3日

※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休

交通

鉄道・阪神電鉄「岩屋」駅、

「春日野道」駅から徒歩約10分

・JR「灘」駅南口から徒歩約12分

・阪急電鉄「王子公園」駅

西口から徒歩約20分

バス 三宮駅前から約15分

車 阪神高速道路神戸線

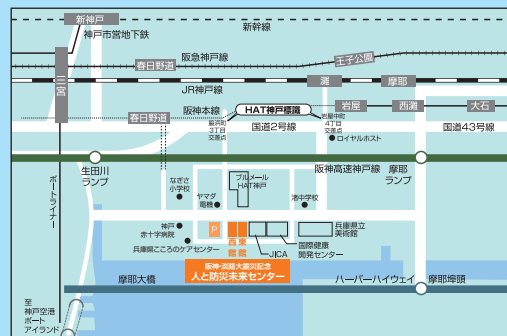
「生田川」ランプから約8分

・阪神高速道路神戸線

「摩耶」ランプから約4分

・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり



メルマガ センターの活動や企画展開催の情報を配信中

友の会 個人会員 1,500円/年 法人会員 一口20,000円/年

#人と防災未来センター



学官連携による 治水計画のパラダイムシフト

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
上級研究員 中北 英一

地球温暖化により地球平均気温が産業革命以来1.5℃上昇した世界に我々はいる。豪雨災害に関しては、今までの常識はもう通用しないという愕然たる認識が大事である。豪雨の頻度がこれからもどんどん増え、1時間で降る雨の強さも強くなり、総雨量も多くなる。それだけではなく、今まであまり豪雨災害が起こらなかった地域でも豪雨災害が起こりやすくなる。

そのために、後悔しない地球温暖化への適応が大事になる。私たちはこの20年近く、文部科学省による一連の気候変動予測研究プログラムを土台に、科学的な気候変動将来予測、雨の降り方や洪水出水、高潮がどう変わるかという研究をしてきている。その傍ら、国、例えば治水を担当している国土交通省とは15年以上前から、地球温暖化に見合うよう治水計画を変えないといけないという議論をしてきた。今までは過去の観測した情報をベースに治水計画は立てられてきたが、もう温暖化の影響が出ている、もっと出るといふ科学的な将来予測も信じた上で治水計画を立てないと駄目だということで、科学的な将来予測情報が治水計画に使われるようになった。これが第1のパラダイムシフトである。

その中では、少なくとも「治水の基礎体力の増強」が必要である。引き堤をしたり、河道断面を大きくしたりというハード的な対応は土台として大事である。しかし、温暖化の影響では、ハード対応だけでは太刀打ちできない限界点が来ることも考えないといけない。そこで「流域治水」という考え方が導入された。川から水を溢れさせないだけでなく、溢れても社会が守られるような治水を目指すべきだという考え方で、上・中・下流、そして行政・企業・住民が協働して治水に対応していく。と同時に、危機管理という最大クラスの、非常に怖いものが起こる場合にも対応をしていかないといけないのが温暖化時代である。自助、共助による防災力の増強も、温暖化でどうなるかという科学的予測を共有した上で、さらに進めることが大事である。これらが第2のパラダイムシフトである。

温暖化の進行はゆっくりだとイメージするかも知れない。しかし気がつけば温暖化の影響がもうここまで出ている、と思うようなスピードで進む。今から対応を考えないといけない。一刻も早く後悔しない対応「適応」を、今すぐ計画を含めて始めないといけない。適応のためには、過去の情報、過去の常識だけを考えないで、将来どうなるかという科学的な予測を見ながら想像をしていく力が必要であ

る。歴史的に地域が持っている知恵を最新の技術で生かし直すということも必要である。

令和3年3月には国土交通省は治水計画の基準を地球平均気温が産業革命来2℃上昇する世界に見合うように引き上げ、それに適応するために「流域治水」へと舵を切っている。令和8年4月末現在、全国109水系のうち44水系の河川整備基本方針が更新されている。

流域治水の目指すところは、気候変動を踏まえて計画目標を見直した後、河道内だけではなく河川の流域全体のあらゆる関係者が協働して行う持続可能な治水である。すなわち上流の集水域、下流の氾濫域双方の頑張りで一体的に出水から社会を守ることを目指す。

そして、総合土砂管理計画の地球温暖化対応が、温暖化に適応した河道・海岸計画や流域生態系の適応保全においても重要である。

最後に、上記の流域治水施策がスムーズに進められるよう流域治水関連法案が整備されたことも流域治水として極めて重要な一部と認識すべきである。

今後、温暖化対応に更新された河川整備基本方針をもとに河川整備計画を構築してゆくに当たり大事な3点を加えておきたい。まずは「後悔しない」適応である。今始めないと後悔することになる。2つ目は、計画降雨の将来予測倍率は流域毎に幅がある点である。採用されている倍率は、ある意味、流域倍率の地域期待値の全国平均という位置づけを持つ。すなわち、温暖化適応としての治水計画には、超過洪水に対しても減災効果のある計画が重要である。3つ目は、人間活動に依存しての温暖化レベル予測の不確実性があることである。レベル予測は外れてさらに上がるかもしれない。したがって、レベル予測が変わっても一から計画を練り直さないようにできる「手戻りのない適応」に見合う計画が重要である。

最後に、河川氾濫（外水氾濫）だけでなく内水氾濫に寄与する雨も温暖化でシリアスになる。流域治水が外水の疎通強化だけに貢献するのではなく、内水も含め地先地先の安全度を高めるように貢献することも重要である。現法制では内水氾濫対応は市町村の役割である中、流域一体となって温暖化適応を図れる法制への発展は重要であると考えられる。これは、流域治水、水利用、流域環境を三位一体として考える流域総合水管理とも相いれるものと考えている。地球温暖化適応をこれらの進展の契機とすべきと考えている。

Profile 中北 英一 氏

1959（昭和34年）生まれ
京都大学大学院工学研究科修士課程修了
京都大学工学博士
京都大学副理事、防災研究所所長などを歴任
現在、京都大学 総長特別補佐 名誉教授、（一財）日本気象協会 顧問、国土交通省社会資本整備審議会河川分科会会長
（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター上級研究員

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください



Hem21 NEWS
vol.117

令和8年5月発行

（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2（人と防災未来センター）
<https://www.hemri21.jp/>